クラブハウス名古屋　企画書

新しい地域精神保健システムの実践

1 何故クラブハウス！？

クラブハウスの名前の由来は、「WANA クラブ（We Are Not Alone）」という当事者で結成されたグループに起源をもつ。WANA クラブはニューヨークの州立病院で知り合った数名の当事者が「退院したにもかかわらず"元患者"という扱いを受けるのではなく、自分たちも社会の中で何らかの意義ある生活を送りたい」という思いから結成された。当時、WANA クラブには独自の場所がなったため、YMCA の会議室、街のカフェテリア、公共図書館の階段に定期的に集まり、ミーティングを重ねました。WANA クラブは、自分たちの思いや存在を載せた会報を作成し、それを持参して仲間の病院を訪問するなどの活動を行っていた。WANA クラブは、地道な活動を通して賛同者や協力者を増やし、1948 年にマンハッタンの西側 47 番街に石造りのビルを購入し、自分たちの独立した場所を確保しました。このビルの中庭に噴水（Fountain）があったことから「ファウンテンハウス」と名づけられた。その後、ソーシャルワーカーが加わり、スタッフと当事者が協業するスタイルのクラブハウスモデルが構築され、普及していった。

オルタナティブ協議会の運営するクラブハウスは、このクラブハウスモデルの理念を共有する。その理念とは次のようなものだ。クラブハウスは医療的な枠組みから脱却し、当たり前の生活、普通の生活というものを活動の基盤としている。そのため、「○○してはならない」ではなく、「○○することができる」という視点を大切にしている。

- クラブハウスは自由に来ることができる場所である（自分の好きな時に来ることができ、そして歓迎される）。
- クラブハウスは意味のある仕事がある（単に暇つぶしのための仕事ではなく、クラブハウスを運営していくためには必要不可欠な仕事があり、実際の生活に則した必要な仕事を行う）。
- クラブハウスは意味のある人間関係がある（クラブハウスのメンバー、スタッフはお互いに尊重し合い、支え、頼りあう関係）。
- クラブハウスはいつでも帰ってくることができる場所である（社会での生活に行き詰ったときなど、いつでも温かく、仲間に迎えられる場所。通過施設ではなく、メンバーとして一生所属することができる）。

現在、日本には 3 か所の世界クラブハウス協会に認定されたクラブハウスがあるが、それらは日本の福祉システム（就労継続 B 型、地域活動センター）の基盤の上に運営されている。

2 オルタナティブのシステム

名著、『精神病者自らの手で』ジュディ・チェンバレン著では、オルタナティブを次のように分類しています。＊ジュディ・チェンバレンは、オルタナティブを精神医療に代わる試み、セルフヘルプグループと定義している。セルフグループといっても、対話を中心とした日本の患者会や家族会、分かち合いの会のようなものではなく、当事者参加型の、居場所やクライシスセンター、就労、グループホームなどすべての施設の運営主体です。

- 精神科医が、看護士やソーシャルワーカーを管理し、患者を管理し、向精神薬を飲ませている、病院ではなく、単に地域社会で運営している小規模施設
- パートナーシップモデルは、サービスを提供するために専門家と非専門家が共同するモデル
- 相互支援のサービスを利用したいというすべての人がメンバーになれる支援モデル（専門家は居ない）
- 元患者が、彼らだけで互いに手助けし合い、サービスを運営する独立モデル

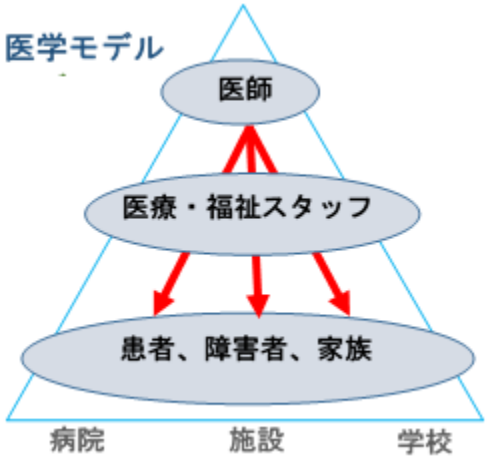
上から下に向かって、階層的管理、専門家の関与が弱くなり、最後は、完全に元患者だけで運営するモデルです。

ジュディ・チェンバレンは 3 番目と 4 番目を本当のオルタナティブとし、最も効果の高いのは 4 番目の独立モデルだとしている。日本の公的な福祉サービスは、専門職をおくことを条件にしているのだから、ほとんどが 1 番で、先進的な試みが、かろうじて 2 番に分類されるものでしかない。ジュディ・チェンバレンの基準では、オルタナティブと呼べるものはこの日本にはないということになる。

オルタナティブ協議会のクラブハウスは、3 番目の支援モデルを採用する。ヘルパーステーションのみ制度利用を考えているが、福祉事業としての居場所、就労支援などの制度は利用しない。

3 オルタナティブ協議会の理念

クラブハウスメンバーは、オルタナティブ協議会の理念の下で意思決定・行動することが要請される。



〇行き過ぎた医療化を批判し、市民中心の精神保健サービスを構築する試み。

生活（社会）モデルでの精神保健システムを実践する。本人が自分で決めて、自分で行動し、自分で責任を取る経験の場を提供する。どのような治療を受けるか、薬を飲む飲まないを含め、本人の人生の決定、生活の仕方に至るまで、本人の決定が尊重される。

〇精神保健（メンタルヘルス）を非病理的な視点で捉え、個々の市民を取り巻く環境の改善や全人的な問題解決を図る試み。

精神症状を脳の機能障害と捉えない。精神症状を病気や障害と捉える（レッテル貼りをしない）のではなく、その人の人生の危機における正常な反応、その人の困りごとと考える。その困りごとに対する合理的配慮を提供する。

〇コミュニティへの参加や人々の連帯が、人々の幸福に寄与するとする考え方。

支援を必要とする人々を不必要に孤立させたり、地域社会から排除することなく、彼らのニーズを満たし、潜在的な可能性を支援することを任務とする思慮と責任のある人々のネットワークが、快復に資すると考える。（コミュニティメンタルヘルス、クラブハウスモデル）

〇生産性や業績達成を重視する社会的文化に疑問を呈し、地域社会での相互扶助、自治的な組織をベースにした生活を実現する試み。

相互援助の仕組みを提供し、低コストかつ質の高い生活資源の提供を図る。利益を追求するのではなく、相互援助の仕組みを通じて、コスト軽減を図る試み。

〇行き過ぎた効率主義、役割分担を廃し、全ての人が、全てのサービスの担い手となり得る地域社会の構築を目指す試み。

組織の決めた役割や利益を追求するのではなく、それぞれの出来ること、したいことを応援する。経験を積む時間を待つ。

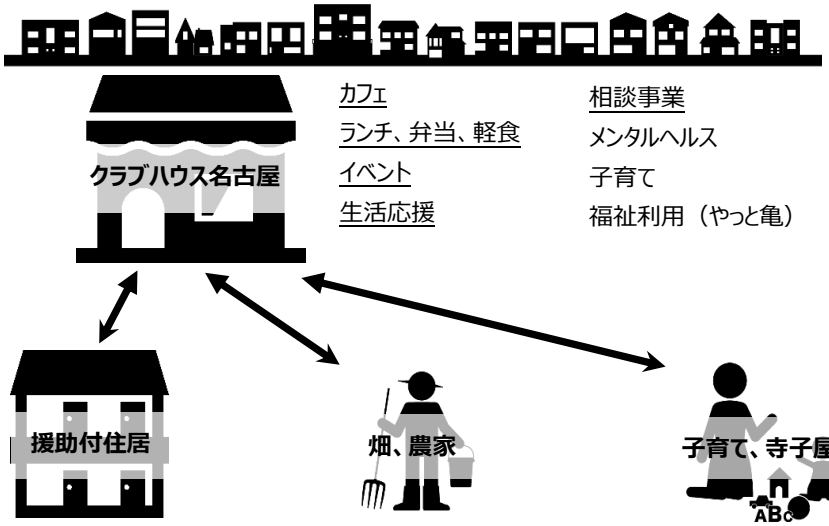
4 クラブハウス名古屋の理念（ルール）

『今、私を支えたり、導いたり、誘ったりしてくれる周りの人々は、私の支援者であるだけでなく、私の活動の受け取り手であり、目標そのもののような存在なのだ。』 ジュディ・チェンバレン

クラブに来れば、誰かが居て、おしゃべりができる。クラブに来れば、食事ができる。クラブに来れば誰かの役に立てる仕事ができる。クラブに来れば困りごとの相談ができる。クラブに来れば元気になれる。

〇誰もが参加できるインクルーシブなコミュニティを実現する
資格や性別、年齢、障害の有無などで排除されない。メンバーに課される唯一の義務は、他者に害を与えないことと皆で利用するクラブハウスという共同のツールを大切にすること。
〇低コストで良質な生活を実現するための自助組織を構築する
自助的な食事、介護、教育サービスをコミュニティ内で受けられる。
〇役に立つ喜び、仕事をする喜びを知る場を提供する
仕事は、基本的に複数メンバーで行う。経験を積み、相互の信頼関係を構築してから、独り立ちする。
〇本格的な就労のための経験値を上げる
メンバーはいつでも、他の本格的な就労につくことが出来るが、メンバーとしていつでも参加できる。
〇人々が集まるサロンに、訪問サービス（オルタナヘルパーステーション）を併設する。施設での支援ではなく、訪問支援（支援付き住居への支援機能）を中心とした生活支援機能を提供する
〇社会（生活）モデルを実践する人材を育成する
〇誰もが当事者であるとの認識、相互援助を基本とする
〇常に困りごとを相談する機能があり、問題（感情）を溜め込まない

5 クラブハウスの機能



5.1 インクルーシブな地域社会生活の拠点

共に生活するための自助活動を支援するサロン（談話室）を運営する。

サロンは、ヘルパーステーションを併設しており、近隣のお年寄りや、障害者、子育て世帯などの困りごとを引き受ける。

サロンは、クラブハウスメンバーフ及び近隣住民の有償ボランティアスタッフにより運営する。

サロンで働くメンバーは、オルタナティブの理念を学び、常に念頭に置いて活動する。

5.2 サロン機能

5.2.1 モーニングカフェ（午前）

朝食は、近くの喫茶店で済ますという名古屋の喫茶文化をそのまま継承。地域の日常使いの喫茶店として営業する。営業時間は 7 時から 10 時半。ドリンクと軽食（トースト）のモーニングサービスを提供する。仕事は、ピアスタッフ、近隣住民の有償ボランティアに担っていただく。365 日年中無休。

5.2.2 軽食ランチ、弁当販売（ランチ、宅配）

弁当販売とランチ営業（弁当のイートイン）、本格的な厨房設備を必要としないものを想定。お弁当の仕込みは前日に行い、サロンでは簡単な調理と味噌汁、スープ、ドリンクの提供を行う。担い手はピアスタッフ、近隣住民の有償ボランティアに担っていただく。平日営業。

5.2.3 おもてなし食堂（夕食）

経済的に苦しい時、多忙で子どもに十分な食事を提供できない時に、低価格かつ栄養に留意した食事の提供を行う。

〇日替わり・単一メニュー
〇食材の共同購入でコストを低減
〇事前にアセスメントを行っている場合には特別な配慮（食事券の提供など）を行う
〇皿洗い手伝い、閉店後の掃除で支払い

5.3 生活応援事業

ヘルパー登録制の訪問型サービスを提供する。
週２時間程度の隙間時間を活用することも可能とする。近所の困りごとと隙間時間を活用したい人のマッチングを行う。
サービス提供は、原則、複数メンバーで行う。
頻繁に訪問する場合には、事前に当人及び家族との十分なアセスメントを行う。
ヘルパー業務で、生計を立てたいメンバーは、制度ヘルパーとして働くことが出来る。

5.3.1 生活応援

5.3.1.1 ご近所生活応援（何でも屋）

制度ヘルパーでは対象とならない制度外の小さな困りごとなどをお手伝いする。荷物の上げ下ろし、庭の掃除、落ち葉掃除、ペットの世話や留守宅での餌やり等。お弁当宅配。出張調理。

5.3.1.2 子育てママさん応援

感覚統合などの発達支援の教育を受けたスタッフ。家事の代行、子どもの世話などのお手伝い。貧困家庭に向けては無償サービスを実施する。

5.3.2 制度ヘルパー（別法人設立）

5.3.2.1 ヘルパーステーション

制度を利用した高齢者、障害者向けヘルパー事業、ガイドヘルパー

- 診察同行
- 入院先訪問
- 退院支援

6 イベント事業

週末（土曜、日曜）のデイタイム（11 時～17 時）
イベント向け貸しスペース（有料、1 ドリンク制？）

6.1 相談イベント（クラブハウス主催イベント）

6.1.1 メンタルヘルス対話会

〇サード・オピニオン会　有料
毎月第３土曜日　メンタルヘルス（精神疾患）相談会を開催する。
〇相談診療会（個別面談）有料
アセスメント面談（中川）、必要に応じて野田正彰氏の相談診療
メンバー向け面談

6.1.2 子育て相談会

〇子育て講習会（茂木厚子氏プログラム）有料
〇療育グッズ販売

6.1.3　介護相談会

7 農業連携

7.1 自営農園（未定）

クラブハウスで使用する食材の栽培と提供

7.2 農家連携

各地のオルタナティブ協議会のメンバーの知り合いの農家との連携
理念に共感いただき、協力いただける農家の発掘

- 無償提供
- 商品にならない傷物野菜を低価格で引き取る

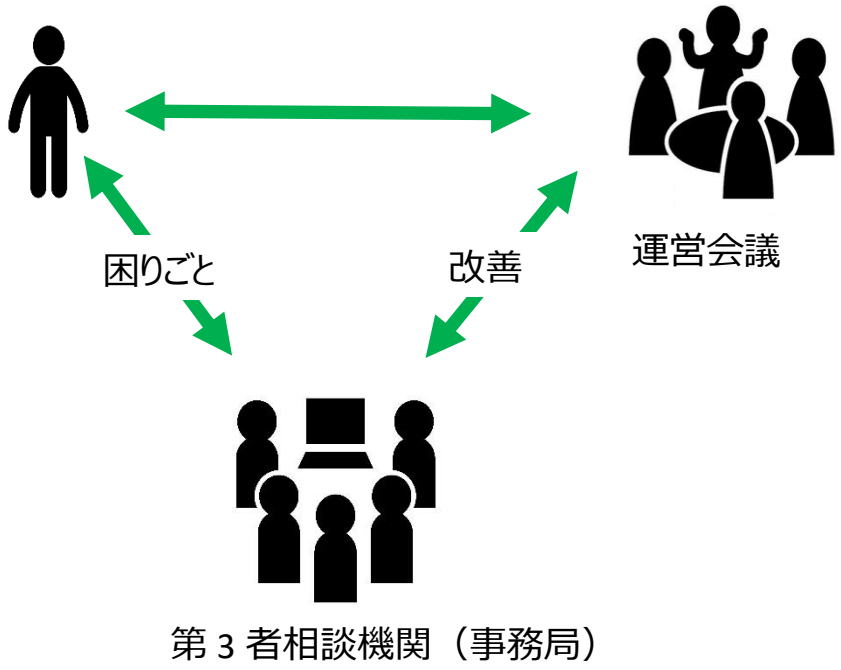
8 援助付き住居（令和 5 年夏オープン予定）

ヘルパーステーションと連携した援助付きアパートの経営
生活保護での利用を可能とする
名古屋市中村区高道町 1 丁目　アパート 4 戸

9 寺子屋（未定）

子どもの居場所（避難所）
自習室
感覚統合理論に従った子育てスクール

10 運営



〇事務局
全国オルタナティブ協議会
経営企画、運営相談、会計、人事、対外業務、資金繰り、メンバーケア

クラブハウスの組織

〇メンバー
クラブハウスで役割を持って働く人
日常的に健康相談、生活相談が出来る
愛知オルタナティブ協議会の会員

〇運営会議
愛知オルタナティブ協議会
メンバーによる運営会議（全体会議）
仕事毎の運営会議
仕事毎に、リーダー役を選出
カフェ部門（くらぶはうす名古屋）
生活応援部門（オルタナヘルパーステーション）
土日イベント部門

役割分担は、メンバーと相談の上決定する
新メンバーは、お試し期間を経て、他のメンバーの承認を得て正式メンバーとなる。

11 その他

11.1 オルタナ PAY の導入（検討中）

相互援助の仲介通貨として、オルタナ PAY を導入する。

11.2 クラブハウスの全国展開（企画中）